

みんなで支え合って命を大切に

小筑紫小学校 6年

吉野 千夏

みなさんは、命を大切にしていますか。私は、普段生活していて気になっ
ていることがあります。それは、誰か
に対して気軽に「死ね」や「消えろ」
という言葉をお口にする人がいること
です。また、人に対してだけでなく自
分がうまくいかなかったときにすぐ「死
にたい」と口にする人がいるのも気
になります。私は、そんな言葉を耳に
するたびに悲しくなります。言った人は、
平気かもしれないけど、言われた人は
一生心に傷が残る言葉です。他の人や
自分に、そのような言葉を気軽に使っ
ている人は、命の大切さがわかってい
ないと思います。

私にはお父さんがいません。お父さ
んは、私が幼い頃にがんで亡くなりま
した。それは私が、一歳か二歳だった

ころの出来事なのでその時のことはよ
く覚えていませんが、お父さんが病気
だったことや、病院へ行った時のこと
は、少し大きくなってから家族から聞
きました。

お父さんは、がんを治すための治療
をするために病院に入院し始めたそう
です。その時は、お母さんも忙しかっ
たので保育園のお迎えは、おじいちゃ
んやおばあちゃんが来てくれていたの
を覚えています。少し寂しい思いをし
ましたが、お父さんはまたきつと帰っ
てくると信じていました。しばらくす
ると、お父さんががんは治り、家に帰
ってきました。お父さんの病気が治っ
たときいて、「お父さんと遊べる」とう
れしい気持ちになりました。

しかしお父さんとの楽しい生活は、
長くは続きませんでした。その後お父
さんのがんは再発して、また同じ病院
での入院生活になりました。その時周
りの状況がわからなかった私は、
「なんでまた入院するの？」

と不思議に思っていました。家族全員
がお父さんのために毎日頑張っていた
けれど、そんな中でも幼かった私は、
ただ普通の生活を送っているだけでし
た。

その後お父さんは、がんで亡くなり
ました。その時、お母さんや兄や姉、
周りの人々は泣いていて、とても暗い
雰囲気だったそうです。私は、その時
のことをはっきりと覚えていませんが、
話を聞いて悲しくなりました。また、
これは最近のことですが、お父さんの
職場の人が来た時、

「元気やったがに、悲しいね。」
と言っているのを聞いて、私の家族だ
けでなくその人もお父さんが死んでと
ても悲しいんだと感じました。一つの
命がなくなるといことは、たたくさん
の人が辛く悲しい思いをするのだとい
うことを実感しました。

お父さんが亡くなってから十年近く
経ちました。私が保育園や小学校に入
学したばかりのころは、お父さんがい

なくてさみしいなと思うころがありました。なぜなら、周りのみんなはお父さんがいて、運動会や入学式などには来てくれていたのに自分にはお母さんしかいなかったからです。その時は、他のみんなのことをうらやましく思っていました。

でも、今はそんなことは思っていない。なぜなら、お父さんがいなくてもお母さんが私達兄妹のために一生懸命頑張ってくれているからです。もうお父さんはいないけれど、お母さんのことを大切にしたいと思っています。

私は、お父さんとの思い出から、命は一つしかない、命は失ったらもどつてこないということを学びました。だから、気軽に命を粗末にするような行動や発言をする人は、いくら友達であっても許せません。

しかし最近、小学生や中学生が自殺をしたというニュースや小さい子どもが親に虐待を受けて亡くなったという

ニュースをよく聞くので、とても悲しい気持ちになります。ニュースを詳しく見ていると、命を大切にしない理由は、嫌なことがあったからとか、親の仕事のストレスや言うことを聞かないからイライラを子どもにぶつけた、といった理由があるそうです。このようなニュースを見るたびに残念な気持ちでいっぱいです。

命を粗末にすることは、絶対にあつてはいけません。なぜなら、私のお父さんのように生きたくても生きられない人がこの世の中にはいるし、せつかく親からもらった大切な命だからです。

命を大切に生きていくために大切なことは、「みんなで支え合うこと」だと思います。辛いことがあっても、周りの人々と支えあつて声をかけ合いながら生きていける世の中になってほしいです。困っている人がいたら、相談に乗り、命を粗末にしてはいけないということを教えていきたいです。

私は、これからも命を大切にしてみ

んなで支え合つて生活していきます。これからさらに、みんなが命を大切にできる社会になることを願っています。

